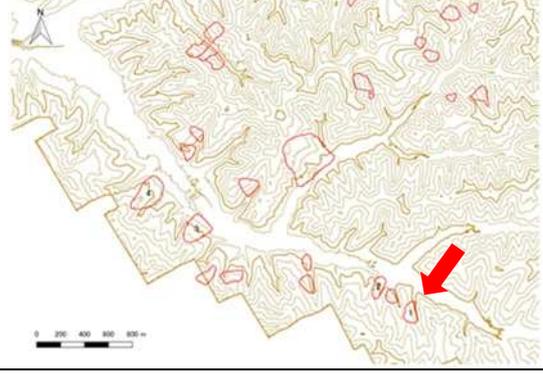
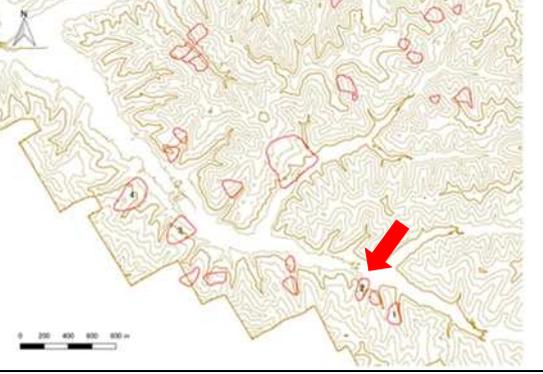
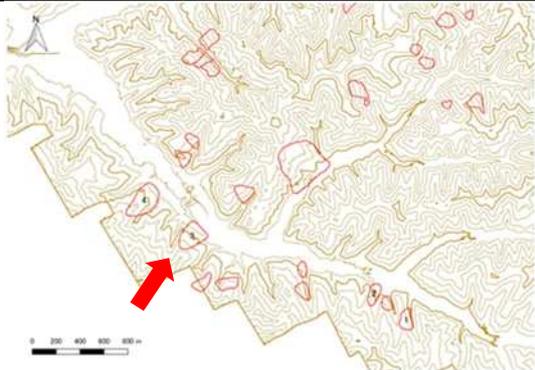


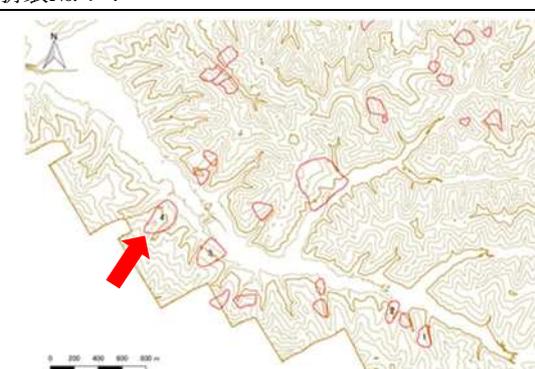
岩盤地すべり等の諸元（判読図上の計測）

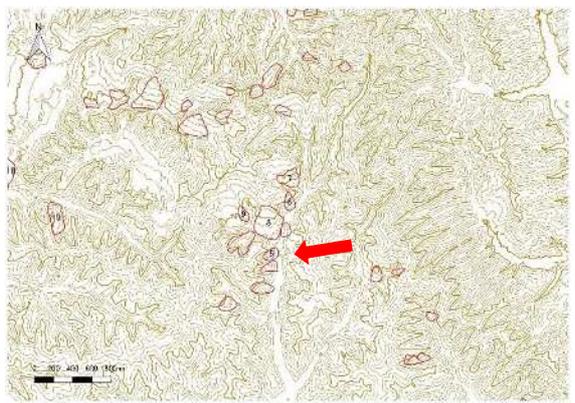
流域名	カルテNo.	崩壊様式	震央からの距離[km]	断層からの距離[km]	斜面長[m]	最大幅[m]	移動体面積[m ²]
Z-10-4	1	岩盤地すべり	3.2	3.5	105	182	14646
	2	岩盤地すべり	3.4	3.7	135	71	13597
	3	岩盤地すべり	5.0	5.0	242	191	35838
	4	岩盤地すべり	5.4	2.2	346	193	47281
M-1-10	5	表層崩壊	6.0	4.8	-	-	-
	6	岩盤地すべり	6.5	5.1	189	114	15797
	7	岩盤地すべり	6.7	5.2	192	228	30770
	8	岩盤地すべり	6.2	4.8	331	280	80750
	9	岩盤地すべり	6.1	4.6	171	96	12055
Z-12-1	10	岩盤地すべり	7.2	4.6	185	121	17017
	11	岩盤地すべり	7.0	4.4	145	107	12609
	12	岩盤地すべり	7.0	4.2	175	70	9059
Z-5-4	13	地すべり	8.8	3.9	323	176	45107
	14	岩盤地すべり	9.0	4.6	366	228	64801
	15	岩盤地すべり	9.2	4.9	131	166	18242
M-1-9	16	岩盤地すべり	2.6	2.2	91	85	6710
	17	表層崩壊	2.6	2.2	-	-	-
Z-6-2	18	岩盤地すべり	5.4	2.2	336	366	125699
	19	トップリング	5.1	2.7	-	-	-

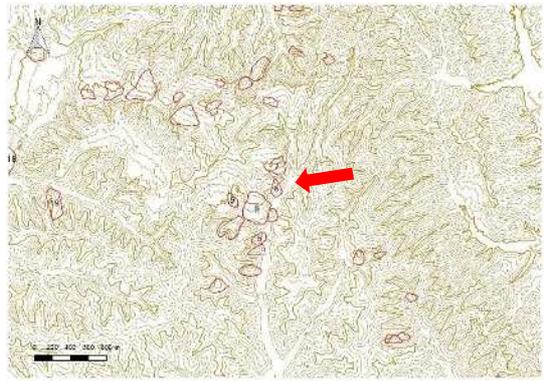
流域名：Z-10-4	崩壊No.：1
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>滑落崖は尾根頂部に連続して形成されている。地内においては樹木の傾倒はあまり見られず、土塊が攪乱されるほどの変状は発生していない。地内の中腹部および下部に林道が整備されているため、下部切断の影響も考えられる。土塊は概ね流れ盤方向へ滑動している。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 滑落崖近景</p>	

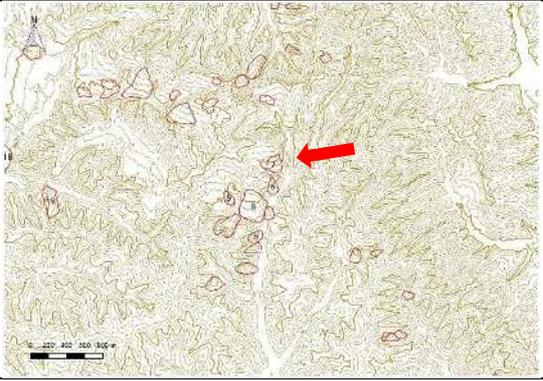
流域名：Z-10-4	崩壊No.：2
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根の先端部が大きく滑動しているが、移動土塊内の樹木は倒れずに残っている。滑動方向は概ね流れ盤に沿っている。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 滑落崖から移動体を望む</p>	 <p>2 移動体</p>

<p>流域名：Z-10-4</p> <p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根で区切られるやや凹地形の範囲内で滑動しており、遠景からの観察では定かではないが樹木の傾倒の様子からは地内でブロック化しているように見てとれる。地内は20°前後の流れ盤斜面となっている。</p>	<p>崩壊No.：3</p>  <p>位置図</p>
 <p>1 崩壊地遠景</p>	 <p>2 右側壁遠景</p>

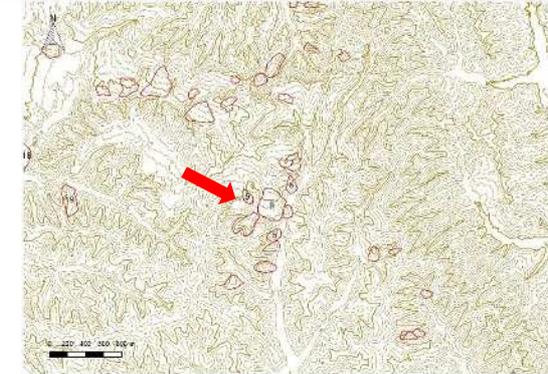
<p>流域名：Z-10-4</p> <p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>右側壁は谷、左側壁はやや尾根地形を呈した斜面に区切られる範囲で変状が発生している。地内は20°前後の流れ盤斜面となっている。滑落崖付近は地震後対策工事の際に成形されているため活動状況は不明となっているが、移動距離は数十m程度あると推測される。滑落崖背後の尾根部には複数段の山向き小崖や亀裂が形成されている。</p>	<p>崩壊No.：4</p>  <p>位置図</p>
 <p>1 滑落崖付近</p>	 <p>2 滑落崖から右側壁へ続く陥没帯</p>

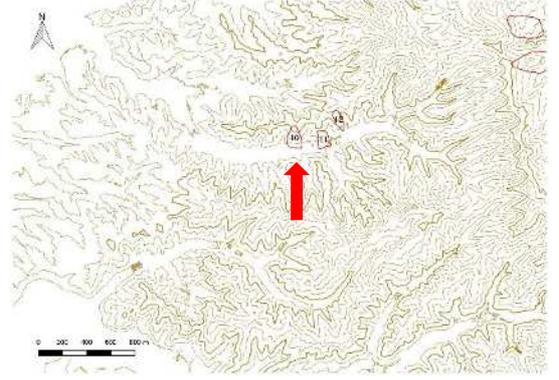
<p>流域名：M-1-10</p> <p>崩壊様式：表層崩壊</p> <p>風化による節理が発達した受け盤斜面で発生した表層崩壊。</p> <p>尾根直下より新第三紀基盤岩の表層植生が滑落しており露頭が確認できる。傾斜 50° 以上の急崖のためテフラの堆積はみられず崩壊地直下の土砂量は少ない。</p>	<p>崩壊No.：5</p>  <p>位置図</p>
 <p>1 崩壊地全景</p>	 <p>2 風化露頭近景。節理に囲まれた箇所から剥落していく</p>

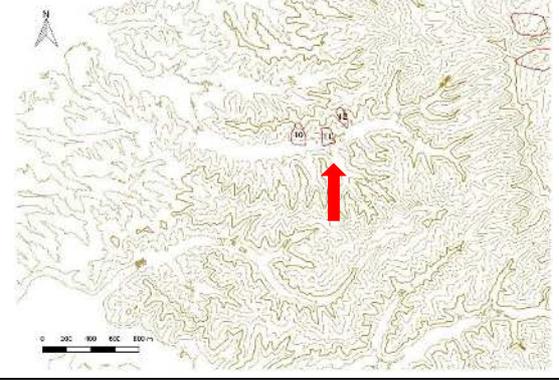
<p>流域名：M-1-10</p>	<p>崩壊No.：6</p>
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>緩斜面に地すべり地形が分布し、地内は全体的に約 20° の流れ盤斜面となっている。表層のテフラの崩壊も併発している。崩壊頭部付近に開き 3.0m 程度の陥没帯が形成されている。</p>	 <p>位置図</p>
	
<p>1 崩壊地遠景</p>	<p>2 崩壊地近景</p>
	
<p>3 滑落崖直下の陥没帯</p>	<p>4 テフラの崩壊由来の土砂が陥没帯内部に流れ込む</p>

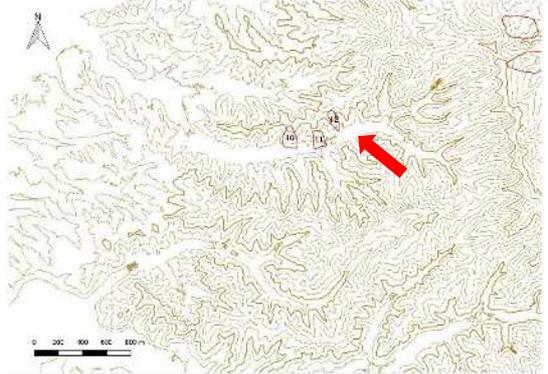
<p>流域名：M-1-10</p>	<p>崩壊No.：7</p>
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根状地形の一部が尖頭方向に並進し、崩壊頭部に明瞭な陥没帯が延長 150m 以上にわたって形成されている。崩壊末端では南南西約 20° 南落ちの流れ盤斜面となっている。陥没帯の幅からの推定では移動量は約 30m。移動土塊は全体的に谷側へ転倒しているが、上端部は陥没帯側（山側）に転倒している。基盤岩に沿って成層堆積した黒ボク・テフラ層、その下位に風化節理の発達した新第三紀堆積岩が確認できる（写真3）が、すべり面はさらに深部にある。</p>	 <p>位置図</p>
	
<p>1 崩壊地遠景。長大な陥没帯と分断された尾根</p>	<p>2 陥没帯上位のテフラの崩壊に由来する崩土も流れ込み堆積する。</p>
	
<p>3 陥没帯（山側に見える露頭）。</p>	<p>4 陥没帯谷側の分断された尾根</p>
	
<p>5.移動土塊の一部</p>	<p>6 切断された尾根を陥没帯内部から見たところ（左側壁付近）</p>

流域名：M-1-10	崩壊No.：8
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根に囲まれた範囲が広く滑動している。滑落崖の状況から推定すると移動距離は長い。</p>	
地質：新第三紀堆積岩	位置図
	
1 滑落崖付近でテフラの崩壊を併発している。	2 滑落崖と移動土塊

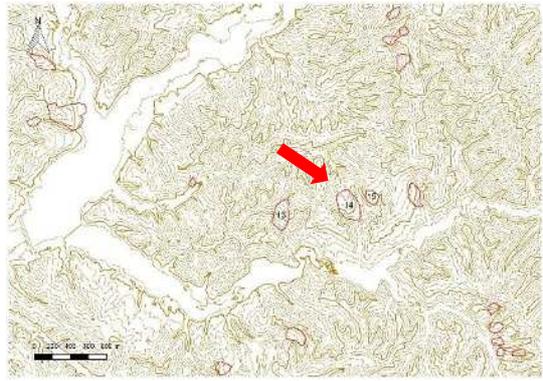
流域名：M-1-10	崩壊No.：9
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根を切断するように滑動している。Z-6-2 で見られたようなややトップリング性のものとも考えられる。規模はさほど大きくはないが、影響深度はやや深い。</p>	
	位置図
	
1 陥没帯を側方から望む	2 風化節理の発達した新第三紀砂岩・泥岩

流域名：Z-12-1	崩壊No.：10
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>稜線に滑落崖が形成され、陥没帯も形成している。左右の隣接する谷壁では袋状のテフラの崩壊が発生しており、移動ブロックはそれらに囲まれる形となる。移動ブロック内にもテフラが堆積するが、緩傾斜なため崩壊は発生していない。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 移動体側から見た滑落崖</p>	 <p>2 滑落崖側から見た移動体（中央に陥没帯）</p>

流域名：Z-12-1	崩壊No.：11
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>やや凸状にはらみ出していた緩斜面の一部が滑動したもの。移動ブロックは両側壁で発生している袋状のテフラの崩壊に挟まれて位置する。移動体内に生育する樹木の傾倒は少ない。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 右側壁</p>	 <p>2 滑落崖～左側壁</p>

流域名：Z-12-1	崩壊No.：12
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>緩い尾根地形が滑動している。滑落崖の様子から移動距離は十数 m と推定される。移動体内の樹木は傾倒していない。左側壁側にテフラの押し出しがみられる（写真 2 左）。左右に隣接する谷地形ではテフラの崩壊が発生している。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 滑落崖側からみた移動体</p>	 <p>2 滑落崖～左側壁</p>

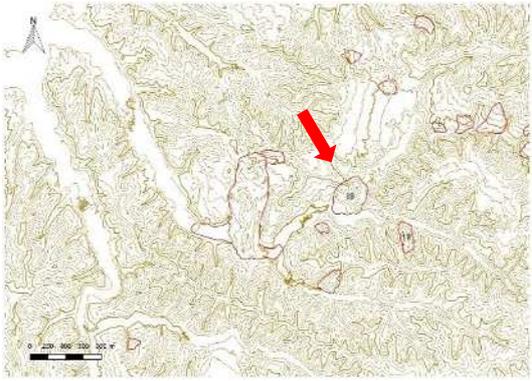
流域名：Z-5-4	崩壊No.：13
<p>崩壊様式：地すべり</p> <p>凹地形内で発生した幅 20m 程度の崩壊斜面が右側部に該当し、左側壁は尾根部に形成された二重稜線によって区切られる斜面に該当し、樹木が谷向きに傾倒している。滑落崖断面に数 10cm 程度の Ta-d 以浅のテフラが確認できるが、滑落崖斜面に風化頁岩露頭が確認される。尾根斜面には複数の谷落ち亀裂小崖が形成されているが、開口性の亀裂は見られない。</p> <p>深層の並進地すべりではなく、新第三紀堆積岩中でのごく浅い地すべりに該当。崩壊頭部付近には落ち残りの土塊が滞留していると考えられる。</p>	 <p>位置図</p>
 <p>1 凹地に囲まれた崩壊地（右側壁）</p>	 <p>2 左側壁を区切る尾根に形成された陥没帯（向かって右が傾動）</p>

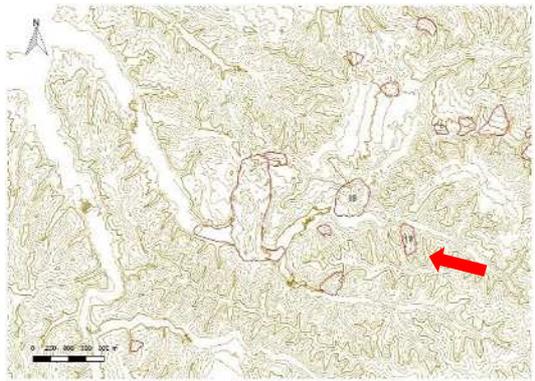
流域名：Z-5-4	地すべりNo.：14
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>稜線直下の滑落崖に沿った長大な滑落崖斜面からなる地すべりで、滑落崖には1m未満厚の黒ボク・テフラ層の下に泥岩優勢の砂泥互層が連続する。移動土塊は谷側に転倒しており、山向き小崖が複数に渡って連続する。すべり面の深さは滑落崖状況から見積もっても30m以上。</p> <p>滑落崖の露頭は右側頭部で層向傾斜はS30W 18S 南落ちの流れ盤。左側頭部に向かって傾斜が変化しているものの、走向は概ね南東方向向きである。頭部付近の土塊は滑落崖から約40m 移動転倒している。</p>	
	<p>位置図</p> 
1 稜線に沿った 200m 弱連続する滑落崖	2 滑落崖にはテフラ層直下に風化堆積岩の露頭が確認される。
	
3 複数の小崖を伴って広範囲で土塊が滑動している。	4

<p>流域名：Z-5-4</p>	<p>地すべりNo.：15</p>
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根を分断する形で、幅約40m、深さ約15mにわたる陥没帯が形成されている。尾根の一部が尖頭方向に移動することで陥没帯が形成され、陥没帯には周辺の崩落岩盤や土塊が堆積している。すべり面は確認できないが、陥没帯露頭に流れ盤構造が確認される事から岩盤地すべりと考えられる。</p> <p>新第三紀露頭の上部にそった成層構造が確認できるが目視で1m前後の厚さである。陥没帯の背後には亀裂等の変形構造は認められない。</p>	 <p>位置図</p>
	
<p>1 陥没帯（移動して切り離された尾根を陥没帯内部から見たところ）</p>	<p>2 隣尾根から見た陥没帯</p>
	
<p>3 土砂が被覆した陥没帯内部</p>	

流域名：M-1-9	地すべりNo.：16
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根稜線部付近に滑落崖をもち、10m前後の谷向き小崖が二段形成され、末端は下部で崩積している。崩壊断面には岩盤露頭が確認でき、周辺の斜面基部で水平に近い流れ盤構造が確認されることから、溪岸付近の岩盤での岩盤地すべりである。滑落崖表層部に1m程度の表土層が確認できるが、Ta-dを示唆する褐色テフラ層は確認できない。基盤岩は第三紀砂岩泥岩互層。崩壊斜面は50°以上の急峻な斜面である。崩壊地末端の溪床では、上流からの流木を含む土砂が多量に地流している。</p>	 <p>位置図</p>
	

流域名：M-1-9	地すべりNo.：17
<p>崩壊様式：表層崩壊</p> <p>基盤岩の新第三紀砂岩泥岩は風化による節理が発達している。崖錐や露頭で確認される礫は、岩芯まで風化している泥岩と、比較的新鮮な砂岩に分類されるが、泥岩優勢であるため全体的に黄褐色である。上位にテフラの堆積はTa-b層以降がわずかにみられる。滑落崖では表層土は50cm前後であり、その直下から風化砂泥互層による岩盤露頭が露出しているため、崖錐堆積物は主に砂礫である。溪床付近の溪岸露頭から水の染み出しが見られることから、風化岩盤中で発生した表層崩壊である。</p>	 <p>位置図</p>
	
1. 崩壊地全景	2. 崩壊地頭部付近の露頭

流域名：Z-6-2	地すべりNo.：18
<p>崩壊様式：岩盤地すべり</p> <p>尾根を横断する幅約 80m、深さ約 35m に達する大きな陥没帯が形成され、陥没帯下流側の土塊は大きく滑動し、移動土塊末端で河床を隆起させている。斜面長は 250m・幅は 300m。すべり面は確認できないが、陥没帯壁面にほぼ水平な平行層理の発達した砂岩泥岩互層がみられ、層理面に沿う岩盤並進すべりであると思われる。想定深さは約 100m。</p>	 <p>位置図</p>
	
1.切断された尾根部	2.Ta-d が 1.0m 程度堆積しているが En-a はみられない。

流域名 : Z-6-2	地すべりNo. : 19
<p>崩壊様式 : トップリング (前兆)</p> <p>ほぼ稜線沿いに陥没帯が形成され、従来の遷急線は傾動している。尾根稜線に陥没帯を形成し、テフラの崩壊を伴う。尾根の基部にあたる溪岸付近には岩盤の移動を示す変状はみられないことから、トップリングの前兆的な挙動を示していることが考えられる。尾根端部に約3.0m幅の岩盤の開きが確認でき、最大15m幅の陥没帯を形成。谷側は40°を超える傾斜になるが、谷頭に向かって緩くなる。陥没帯は尾根軸に沿って次第に変位量が小さく(不明瞭)になるが、テフラを伴う表層崩壊が二次的に発生している。</p>	 <p>位置図</p>
	
1.北側に傾動し柄陥没した尾根部の植生	2.尾根端部にみられる約3.0の岩盤開口部
	
3.陥没帯の奥にみられる緩斜面部の崩壊	
	
5.崩壊地近景 (正面)	